



## ホストの設定

---

Cisco MDS 9216 スイッチまたは Cisco MDS 9500 ファミリーのいずれかのスイッチ用の SVC アプリケーションの設定を続けるには、ホスト数を判別し、VSAN 1 へのホスト トラフィックを隔離し、ホストに V ディスクをマッピングする必要があります。

この章の内容は、次のとおりです。

- [ホストの概要 \(p.6-2\)](#)
- [ホスト トラフィックの隔離 \(p.6-2\)](#)
- [ホストの作成 \(p.6-5\)](#)
- [ホストへの V ディスクのマッピング \(p.6-6\)](#)

## ホストの概要

クラスタはユーザ設定を通じてホストを認識します。どのホストからどの V ディスクをアクセスできるかを制御するには、LUN マッピング機能を使用します。ホストには SAN に接続する複数のポートが含まれる場合があります。設定プロセスを簡易化するために、すべてのホストポートをグループで設定できます。ホストポートは対応する pWWN で参照します。LUN マップを設定する際、特定の LUN 番号を任意に指定できます。LUN 番号を指定しない場合、クラスタが選ぶ LUN 番号が自動的に使用されます。

## ホスト トラフィックの隔離

SVC ターゲット N ポートは、2 台のホストとともに VSAN 1 に存在します。ホストとターゲットを隔離するために、この例では SAN-OS ゾーニング機能を使用します。

ゾーニング機能を使用してホストを隔離する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** `show fcns database vsan 1` コマンドを使用して、VSAN 1 のホストおよびターゲットを表示します。

```
switch# show fcns database vsan 1
VSAN 1:
-----
FCID          TYPE  PWWN                               (VENDOR)          FC4-TYPE:FEATURE
-----
0x6a0200      N     21:00:00:e0:8b:09:e7:04 (QLogic)          scsi-fcp:init
0x6a0300      N     21:00:00:e0:8b:09:f0:04 (QLogic)          scsi-fcp:init
0x6a0003      N     22:20:00:05:30:00:11:69 (Cisco)           scsi-fcp:target svc
0x6a0006      N     21:23:00:05:30:00:11:69 (Cisco)           scsi-fcp:target svc
0x6a0009      N     22:23:00:05:30:00:11:69 (Cisco)           scsi-fcp:target svc
0x6a000c      N     21:20:00:05:30:00:11:69 (Cisco)           scsi-fcp:target svc
Total number of entries = 6
```

**ステップ 2** MDS コンフィギュレーション モードを開始し、VSAN 1 に host-finance という名前のゾーンを作成します。

```
switch# config t
switch(config)# zone name host-finance vsan 1
switch(config-zone)#
```

**ステップ 3** host-finance ゾーンにメンバーを割り当てます。

```
switch(config-zone)# member pwn 21:00:00:e0:8b:09:e7:04 --> host-finance
switch(config-zone)# member pwn 22:20:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
switch(config-zone)# member pwn 21:23:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
switch(config-zone)# member pwn 22:23:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
switch(config-zone)# member pwn 21:20:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
```

**ステップ 4** VSAN 1 に host-marketing という名前のゾーンを作成します。

```
switch(config)# zone name host-marketing vsan 1
switch(config-zone)#
```

ステップ 5 host-marketing ゾーンにメンバーを割り当てます。

```
switch(config-zone)# member pwn 21:00:00:e0:8b:09:f0:04 --> host-marketing
switch(config-zone)# member pwn 22:20:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
switch(config-zone)# member pwn 21:23:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
switch(config-zone)# member pwn 22:23:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
switch(config-zone)# member pwn 21:20:00:05:30:00:11:69 --> SVC ターゲット N ポート
```

ステップ 6 MDS コンフィギュレーション モードに戻り、VSAN 1 に **main-zset** という名前のゾーン セットを作成します。

```
switch(config-zone)# exit
switch(config)# zoneset name main-zset vsan 1
switch(config-zoneset)#
```

ステップ 7 main-zset ゾーン セットのメンバーとして、host-finance ゾーンおよび host-marketing ゾーンを割り当てます。

```
switch(config-zoneset)# member host-finance
switch(config-zoneset)# member host-marketing
```

ステップ 8 MDS コンフィギュレーション モードに戻ります。

```
switch(config-zoneset)# exit
switch(config-zone)# exit
switch(config)#
```

ステップ 9 VSAN 1 の main-zset ゾーンセットをアクティブにします。

```
switch(config)# zoneset activate name main-zset vsan 1
Zoneset activation initiated. check zone status
```

ステップ 10 MDS の EXEC モードに戻り、VSAN 1 のアクティブゾーンセットを確認します。

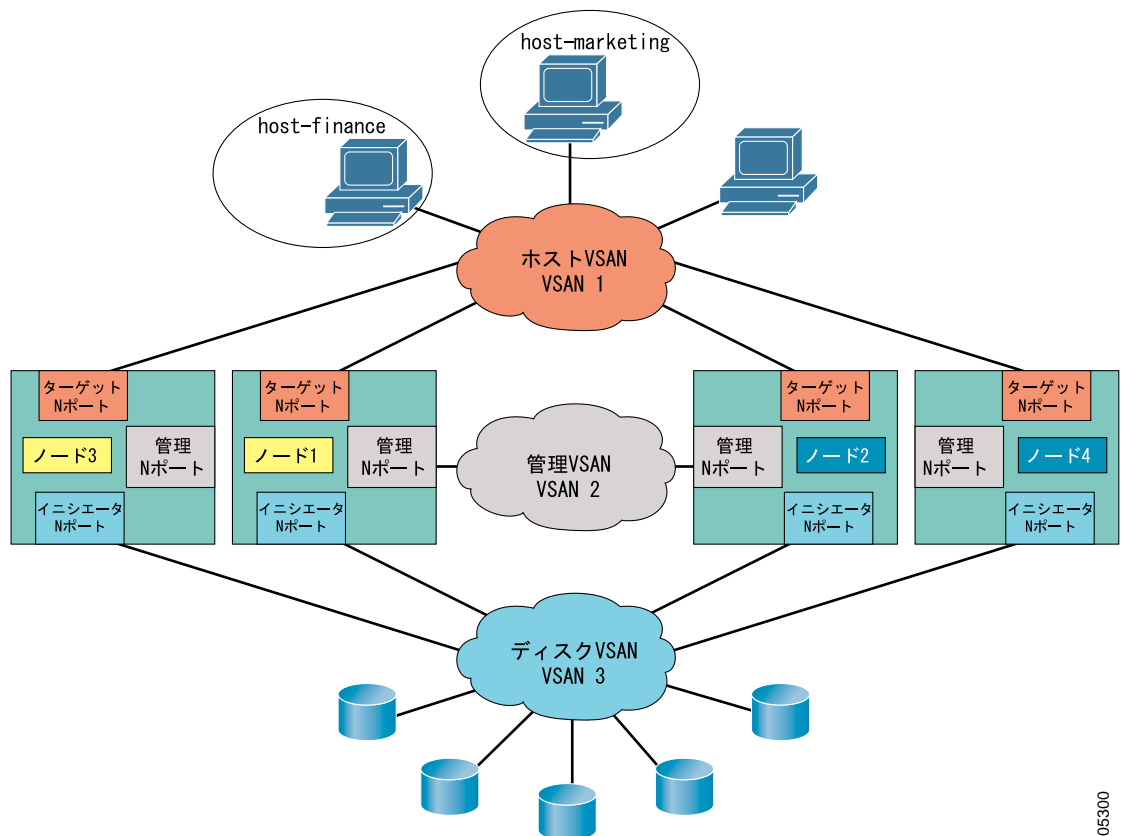
```
switch(config)# exit
switch# show zoneset active vsan 1
zoneset name main-zset vsan 1
  zone name host-finance vsan 1
  * fcid 0x6a0200 [pwn 21:00:00:e0:8b:09:e7:04]
  * fcid 0x6a0003 [pwn 22:20:00:05:30:00:11:69]
  * fcid 0x6a0006 [pwn 21:23:00:05:30:00:11:69]
  * fcid 0x6a0009 [pwn 22:23:00:05:30:00:11:69]
  * fcid 0x6a000c [pwn 21:20:00:05:30:00:11:69]

  zone name host-marketing vsan 1
  * fcid 0x6a0300 [pwn 21:00:00:e0:8b:09:f0:04]
  * fcid 0x6a0003 [pwn 22:20:00:05:30:00:11:69]
  * fcid 0x6a0006 [pwn 21:23:00:05:30:00:11:69]
  * fcid 0x6a0009 [pwn 22:23:00:05:30:00:11:69]
  * fcid 0x6a000c [pwn 21:20:00:05:30:00:11:69]

zone name $default_zone$ vsan 1
```

これで、ホスト VSAN と 2 つのゾーン host-finance および host-marketing の作成が完了しました ( [図 6-1](#) を参照 )。

図 6-1 ターゲット N ポートの識別



105300

## ホストの作成

ホストを作成する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 ***show cluster cluster-name host candidate*** コマンドを使用して、候補ホストのリストを取得します。

```
switch# svc-config
switch(svc)# show cluster SampleCluster host candidate
-----
id           pwnn
-----
1           21:00:00:e0:8b:09:e7:04
```

ホスト候補の pWWN を使用して、マッピングするホストを識別します。

ステップ 2 クラスタ コンフィギュレーション サブモードを開始します。

```
switch(svc)# cluster config SampleCluster
switch(svc-cluster)#
```

ステップ 3 [ステップ 1](#) で識別した pWWN を使用して、***Finance1*** という名前のホストを作成します。

```
switch(svc-cluster)# host add Finance1 hostport 21:00:00:e0:8b:09:e7:04
```

ステップ 4 SVC コンフィギュレーション モードに戻ります。

```
switch(svc-cluster)# exit
switch(svc)#
```

ステップ 5 ***show cluster cluster-name host*** コマンドを使用して、新しく追加したホストおよび設定済みのポート数が表示されることを確認します。

```
switch(svc)# show cluster SampleCluster host
-----
name           number of ports
-----
Finance1
```

## ホストへの V ディスクのマッピング

ホストに V ディスクをマッピングする手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** クラスタ コンフィギュレーション サブモードを開始します。

```
switch(svc)# cluster config SampleCluster
switch(svc-cluster)#
```

**ステップ 2** Finance1 に関するホスト コンフィギュレーション サブモードを開始します。

```
switch(svc-cluster)# host name Finance1
switch(svc-cluster-host)#
```

**ステップ 3** Finance1 に 3 つの V ディスクをマッピングします。

```
switch(svc-cluster-host)# map vdisk crm-data SCSI-lun 10
switch(svc-cluster-host)# map vdisk crm-idx
switch(svc-cluster-host)# map vdisk crm-log
```



(注) SCSI-lun 10 オプションを使用すると、この V ディスクにマッピングする LUN 値をユーザが指定できます。このオプションを使用しない場合、使用可能な最小の LUN 値がクラスタによって自動的に選択されます。

**ステップ 4** SVC コンフィギュレーション モードに戻ります。

```
switch(svc-cluster-host)# exit
switch(svc-cluster)# exit
switch(svc)#
```

**ステップ 5** Finance1 に、pWWN が設定されたポートが 1 つあることを確認します。

```
switch(svc)# show cluster SampleCluster host Finance1
host Finance1:
  Number of port is 1
  Port WWN is 21:00:00:e0:8b:09:e7:04
  LUN0: vdisk crm-idx
  LUN1: vdisk crm-log
  LUN10: vdisk crm-data
```